

# 校長室便り

(文責)

ドーハ  
日本人学校

校長  
酢谷昌義



いただいた本を囲んで

## しっかり本を活用しよう!

先週の水曜日に、カタール公文様から本を寄贈していただきました。中間休みを利用し、今年度2回目となる本の贈呈式を行いました。

公文様から本の寄贈のお話があったのは昨年度末の3月のことでした。その後、7月から公文のドーハ駐在員が置かれなくなるという状況の中、今回わざわざ日本から本を届けに来ていただきました。

カタール公文の杉本様には、この学校を立ち上げるときから大変お世話になっています。実際に学校開設のお手伝いをしていただき、準備委員会の

中の教務班として、特に子ども達が授業で必要とする教材教具の選定等を中心となって進めてくださいました。そのお陰で開校後には、すぐに必要な教材等が整っており支障なく授業に取り組むことができました。

開校してからもずっと、「何か学校のお手伝いができるか」と折に触れて話しておられたので、図鑑類や辞書・社会科や理科の授業で使えるような子ども達の学習に役立つ本をお願いしていました。

昨年度はいろいろな方から物語などの読み物をたくさん

寄贈していただきました。それに比べて図鑑や辞典類が不足していましたから、大変嬉しいプレゼントになりました。

日本のように施設見学等が思うようにできない状況では、今回いただいた本は特に3・4年生の学習には貴重なものです。しっかりと活用していきたいと思います。

多くの方のご協力で、図書室が本当に図書室らしくなってきました。朝読書の時間はもちろんですが、様々な機会を利用して本に触れ、本を生かすことを考えていかなければならないと思っています。



十月の詩  
○小学部低学年  
「青い青い秋ですよ」  
阪田寛夫

ぶどうの実のなる ぶどうの木  
りんごの実のなる りんごの木  
ざらざら風も ふいとくれ  
青い青い秋ですよ  
秋ですよ

くるみの実のなる くるみの木  
かりんの実のなる かりんの木  
ざんざか雨も ふつとくれ  
青い青い秋ですよ  
秋ですよ



杉本様のお話を聞いています

○小学部中学年  
「赤蜻蛉」  
三木露風

夕焼、小焼の  
あかとんぼ  
負われて見たのは  
いつの日か。

山の畑の  
桑の実を  
小籠に摘んだは  
まぼろしか。

十五で姐やは  
嫁に行き  
お里のたよりも  
絶えはてた。

夕やけこやけの  
赤とんぼ  
とまっているよ  
竿の先。

# 校長室便り

(文責)

ドーハ  
日本人学校

校長  
酢谷昌義



## 仲間が増えました！

今日から新しく2人の友達が仲間入りしました。

中学部1年生

〇〇〇〇君

小学部5年生

〇〇〇〇君

これからますます楽しい学校になりそうです。今まで通りみんなで力を合わせ、学習・生活の両面でしっかりと頑張っていきましょう。

## 体調管理に気をつけよう

季節の変わり目がはっきりしないこの国の気候ですが、朝夕はずいぶん涼しくなってきたように感じます。そうは言ってもまだまだ日中の気温は高く、それだけに体調管理が難しい時期なのではないかと思えます。

最近になって、体の調子を崩してしまう子どもが見られるようになってきました。こういう気候の国でも、やはり季節の変わり目というものが影響しているのではないかと思えます。

日本を離れて暮らして、最も心配なのは健康の問題です。体調を崩したり何か病気にかかってしまうというのはとても心配なことです。海外で暮らす期間は人それぞれですが、そこでの生活を元

気で過ごすということは、誰にとっても何よりも優先されるべきことではないかと思えます。

私も昨年新型インフルエンザの流行以来、外出後のうがい・手洗いはずっと続けています。健康のありがたさは、健康でなくなったときにしか考えません。しかし海外での生活だからこそ、健康で過ごすことの大切さをいつも意識していきたいものだと思います。

十月の詩

○小学部高学年

「秋の夜(よ)の会話」

草野心平

さむいね。  
ああさむいね。  
虫がいないね。  
ああ虫がいないね。  
もうすぐ土の中だね。  
土の中はいやだね。  
君もずいぶん痩せたね。  
どろがこんなに切ないんだらうね。  
腹だらうかね。  
腹とつたら死ぬだらうね。  
死にたかあないね。  
さむいね。  
ああ虫がいないね。



休み時間は元気に遊んでいます



○中学部

「初恋」

島崎藤村

まだあげ初(そ)めし前髪  
林檎のもとに見えしとき  
前にさしたる花櫛(はなぐし)の  
花ある君と思ひけり  
やさしく白き手をのべて  
林檎をわれにあたへしは  
薄紅(うすくれなひ)の秋の実に  
人こひ初めしはじめなり  
わがこころなきためいきの  
その髪の毛にかかるとき  
たのしき恋の盃(さかづき)を  
君が情に酌(く)みしかな  
林檎(りんご)の樹(き)の下に  
おのづからなる細道は  
誰(た)が踏みそめしかたみぞと  
問ひたまふこそこひしけれ

# 校長室便り

(文責)

ドーハ  
日本人学校校長  
酢谷昌義

心からの「お別れの言葉」

## 「出会い」と「別れ」

昨日は転入生のお知らせをしましたが、同時に児童生徒会執行部の企画で、今週末に帰国することになった小学部3年生の一司君のお別れ会も開かれました。

みんなで一司君との最後の思い出を作ろうと、2つのゲーム「進化ジャンケン」「震源地」をしてとても盛り上がりました。その後クラスメートからの贈る言葉がありました。友達との別れを惜しむ気持ちもちが本当に良く伝わってきました。

一司君からのお別れの言葉の中で「もっといたかったけど…」と言うのを聞いた時には、私も涙がこぼれそうになってしまいました。あいさつをしている一司君自身がとても寂しそうでしたが、最後に「日本に帰っても頑張ります！」と力強く言ってくれたのがとても印象的でした。

会の終わりに副会長の野君から終わりのあいさつがあり、その内容の深さにも感心しました。



ゲーム「進化ジャンケン」

彼はあいさつで『日本人学校は友達の入替わりがとても多いのが特徴ですが、そのたびに誰もが新しい出会いを経験することができます。そして寂しいことではありますが、せっかく仲良くなった友達との別れも何度となく経験することになります。でもそれはとても貴重な経験で、そういう経験ができることはすごいことなんです。』とみんなに語りかけてくれました。

あいさつを聞きながら、私も同じように考えていました。だからこそ、こういう出会いと別れを大切にしていかなければ

ならないと改めて感じました。

開校2年目を迎えたばかりですが、すでに何度かお別れ会を行ってきました。そのたびに、学校を替わってからの健康と活躍を祈らずにはおれません。

海外での貴重な体験・経験をぜひ生かしてほしいと思いますし、何より自信と誇りを持って頑張っていってほしいと願っています。困難な条件の中で頑張っ身につけてきた力は、きっとこれからの学習・生活の中で生きるものだと信じています。



ゲーム「震源地」



クラスメートの「贈る言葉」



最後はみんな笑顔で記念撮影

# 校長室便り

(文責)

ドーハ  
日本人学校校長  
酢谷昌義

毎日ドッジボールの3・4年生

## 「集団の力」を考える

児童生徒数が増え、子ども達同士の集団が持つ力の大きさを感ずることが多くなりました。

この国ではもともと外で遊ぶというようことは無理ですが、日本でも戸外で群れて遊ぶ子ども達の姿が消えて久しくなります。それには、日本の高度経済成長と産業構造の変化の中で、子ども達の遊びが大きく変質したからだと言われている。

鬼ごっこ・缶蹴りや三角ベースなどといった遊びに代表される、戸外で多数の子ども達が体を動かして遊ぶ姿から、テレビゲームなどのように家の中で少人数の子ども達が体を動かさず遊ぶ姿に変わっていきました。戸外の「遊び場」がなくなる中、子ども達は塾や習い事が忙しく「遊ぶ時間」が限定され、友達もそれぞれの都合で「遊べる仲間」が少なくなるといった、遊びの「時間・空間・仲間」の「三間」の減少が原因と言われている。

このような群れから孤への



鉄棒に夢中な1・2年生

遊びの変質が、子ども達の様々な発達に影響を与えることは間違いないと思われます。

これまで子ども達は、集団での遊びを通してルールを守ることがを学び、体を動かすことで身体能力を自然と高めていました。また、ものや人と直接関わって遊ぶ体験が、言葉と知恵を獲得させ自分への自信を深めることにもつながっていたように思います。大きな声を出して思い切り遊ぶことで心身を安定させ、言葉などによるコミュニケーションを通して友達とのつながりや人間関係を深めていたのではないのでしょうか。

このように遊びはもちろんですが、集団の力は子ども達の人間的な成長にとっても大き

な影響を与えると考えます。

ドーハ日本人学校では、この集団の力が徐々に発揮されてきたように感じています。全校児童生徒が一緒にという場面は限られてきましたが、以前に比べて特に休み時間の表情が生き生きとしているように感じます。クラスという集団はもちろん、縦の人間関係も含めて、子ども達が子どもらしく活動しているのを見るときとても嬉しくなります。



高学年・中学部もドッジボール

### 新しいスクールバスがようやく納車されました！

夏休みの間から待ちに待った新しいスクールバスが、本日納車されました。この間、バス担当理事の中山様には本当にお世話になりました。交渉の窓口として、ずいぶんご苦勞をおかけしました。

大使館の新村参事官にも大変お世話になりました。たくさんの皆様のご協力により、ようやく納車となりました。子ども達のために、大切に使用させていただきます。

これから新しいルート確定、ドライバーによる試走等を経て、できるだけ早く使えるように準備いたします。配車可能になり次第、保護者の皆様には連絡いたします。

